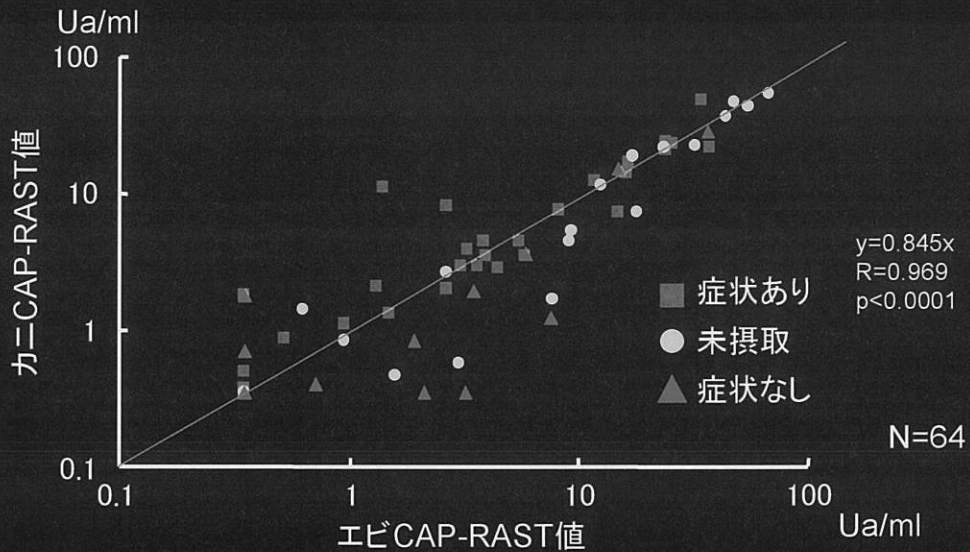


エビとカニのCAP-RAST値の関係



まとめ

エビを摂取して症状を呈するヒトは何らかのアレルギー疾患を持っており、特に他の食物アレルギーを持つ人が多かった。

症状の出現時間は1時間以内がほとんどで即時型反応が多かった。

症状としては皮膚症状が最も多く何らかの皮膚症状を呈していたヒトは85人に及んだ。また、ショックや呼吸困難、意識障害などの生命に危険を及ぼす反応も認められた。

エビアレルギーが有り、カニを食べて症状がでるヒトの割合は64.7%と多く、イカやタコの軟体類では食べて症状が出るヒトは20%前後にとどまった。

軟体類もトロポミオシンを持ち、交差抗原性を示す場合もあるが、甲殻類と比べ摂取しての症状出現は少なく、臨床的に甲殻類とは一線を画す。